

## 新年明けましておめでとうございます

謹んで新春をお祝い申し上げます。

旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。

東日本大震災以降も毎年のように大きな災害が日本を襲いましたが、特に昨年は災害が多い年であったように思います。6月に起きた大阪北部地震、台風7号と梅雨前線によって西日本を中心に襲った7月集中豪雨、9月には北海道胆振東部地震など、枚挙がありません。私ども山崎農業研究所も、7月の関東直撃台風12号によって、総会開催延期を余儀なくされました。東日本震災や熊本地震、九州北部豪雨などもそうですが、未だに元の生活に戻れない状況に置かれている被災者が数多くおられます。心から被災者たちにお見舞い申し上げます。

記録的な猛暑でもありました。6～8月の平均気温は、東日本（関東甲信・東海・北陸）で平年比+1.7℃となり、1946年の統計開始以降、最も気温の高い夏となり、埼玉県熊谷市では41.1°を記録しました。

このような異常気象は地球規模で起きており、特に北極の気温上昇は地球全体の2倍のスピードで進んでいるそうです。異常気象や地球温暖化の原因は人類の“行き過ぎた活動”があるのは間違いのないところだと思いますが、その主要な要因と言われているCO2やメタンガスの放出による影響度がまだ解明されきっていないことは事実ですが、アメリカのトランプ大統領のように地球温暖化を「フェイク」と断定して全く認めない人たちが少なからずいます。これらの人たちの多くは自分たちのビジネス展開に地球温暖化は不都合な真実なのでしょうが、危惧されるのは、このような声が次第に勢力を伸ばし、普通の人々でさえ、えせ科学を駆使した温暖化懐疑論に毒されつつあることです。特に日本では、以前よりも無関心という形で現れています。昨年12月、ポーランドで開催された「第24回国連気候変動枠組み条約・締約国会議COP（コップ）24」は、日本でどれだけ話題になったでしょうか。新聞やTVの扱いは極めて軽いという印象です。

農業は自然と深く関わっています。ですから自然から多くの恩恵を受けるだけでなく、陰に陽に自然に影響を与えています。当研究所は家族農業や小規模農業の大切さを訴えてきましたが、これは単に我が国の4割が中山間地農業であるということだけでなく、“自然から収奪しすぎない”、“自然に還元する”といった自然とのかかわりをより肌身に感じた農業を営むことが出来る最適な形態であると同時に、小規模がゆえに地域の協力、協働を通じて地域社会を醸成させ、文化を育む基礎的な力であると言えるのではないかと、そのように思えるからです。荒れた里山がずいぶん前から問題にされていますが、里山を守るような農村地域における協働力が次第に失われてきたことに他ならないと思います。日本では郊外型大型店のあおりを受けたシャッター通りが問題になっていますが、アメリカでは、コミュニティに全く関わらないアマゾンの宅配ビジネスが、かろうじて地域のコミュニケーションの場を提供していた大型ショッピングモールさえも駆逐していることが大きな社会問題になっています。規模拡大や利便性だけを追い求めるのではなく、お互いの顔が見える距離感こそ地域の協働力の原動力であり、これこそが地域社会や環境を守る担い手であるという視点も極めて重要な時代になってきているのではないかと考えています。

今年も気持ち新たにして山崎農業研究所の活動が真剣に取り組む所存でございますので、変わらぬ御指導、御支援賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

本年も皆様が御健勝で御多幸でありますよう、心からお祈り申し上げます。

## 第 160 回定例研究会-現地研究会 \*\*\*\* 農と福祉からオーガニックな社会へ \*\*\*\*

10月27日に、農福連携事業に取り組んでいる埼玉県熊谷市のソーシャルファーム埼玉福興(株)を訪問し、代表の新井利昌さんと、障害者の書いた絵をプロの手でイラスト化し商品化に取り組んでいるデザイナーの林よしえさん、奥村奈央子さんにお話をうかがいました。

\*\*\*\*\*

開催日：2018年10月27日(土曜日) 13:00~16:00

場所：埼玉福興(株)代表 新井利昌氏 埼玉県熊谷市弥藤吾 2397-8

圃場見学と話題提供

新井利昌さん「オーガニックな社会をめざして」

林よしえさん and 奥村奈央子さん「デザインがつなぐ農福社会  
意見交換

\*\*\*\*\*

埼玉福興の理念は、「家族という形」・「労働力の主力となって働く」をテーマに障がい者がさまざまな形で社会的に自立できるような環境を創出し、障がい者と共に人生を歩む環境とシステムを創造することを目的(当社HPより)としています。

ソーシャルファーム埼玉福興は、単なる福祉支援というだけでなく、通常の賃金、労働条件で生産活動を行い、製品・サービスを市場で販売し、利益を事業に再投資する形で、障害者の雇用の機会を提供することに焦点をおいたビジネスを展開しています。荒井さんは、地域の高齢者、障がい者、若者たち、いろんな世代がリンクした新たな形の農業生産組織をテーマに地域活性化に貢献することを目指し、今後もこの輪を広げ、たくさんの関係者からの賛同や支援を経て、事業性を成り立たせ、収益を上げ、その上でさらなる社会的課題の解決に投資、挑戦する企業として成長をしつづけていきたいといひます。

水耕栽培ハウス(埼玉)	2,241 m <sup>2</sup>
苗・花卉栽培ハウス(埼玉)	1,432 m <sup>2</sup>
野菜苗育苗ハウス(埼玉)	360 m <sup>2</sup>
グリーンケア農園(埼玉)	0.3 ha
露地栽培(埼玉)	4.0 ha
露地栽培(群馬)	1.0 ha
オリーブ栽培(埼玉)	1.0ha
オリーブ栽培(群馬)	1.0 ha
オリーブオイル搾油機(MASTER MILLER 常駐)	



代表の新井利昌さん

最初に28名の方々が共に生活を営む事務所(グループホーム)を訪ね、そこで新井さんのお話を伺いました。ホームのまえにはオリーブの木々があり、ベンチやポストのような図書箱などが設置されています。スタッフや利用者たちの憩いの場になっています。ここで農業を始めたのは今から10年ほど前だそうです。もともとは縫製業の家で育ちましたが、縫製業だけで生計を立てることが難しくなってきたことから、自宅を改装して障がいを持つ方々に生活の場を提供する福祉事業を始めることになったそうです。

オリーブは当ファームのメインになっていますが、何故オリーブを採用したかは特に理由はなく、単

なる思い付き、ひらめきだそうです。オリーブは温暖な地中海のイメージですが、生育温度は-10℃～40℃と非常に幅があるのが特徴で、さらに熊谷は年間を通した気温差はオリーブの生育温度とほぼ一致しているようで、オリーブ栽培には非常に向いているのだそうです。

搾油したオリーブオイルは日本オリーブオイルソムリエ協会から金賞を受賞するほど高品質のものが生産されています。オリーブオイルだけではなく、障害者の通年作業を確保するため、オリーブの葉に着目してお茶を製造したり、市場性を考えて野菜の契約栽培や埼玉名物のネギの苗作りに特化して生産者に提供するなど、しっかりと経営が成り立つような努力もされています。



オリーブの広場



オリーブの広場で説明を聞く



育苗ハウス



オリーブ搾油室前にて

**\*\*\*\*\* 障害者の描いた絵をイラストにして商品化 \*\*\*\*\***

アートやデザインを通して障害のある人と仕事をつくっていくことが注目されています。社会に価値を発信していくためには、創造的な視点や環境、そして関係性を作り出していくことが大切です。

プロのデザイナーである林よしえさんと奥村奈央子さんは、新井さんと協力し、障害者たちが描いた絵に手を加えてイラスト化して商品化する取り組みを行っています。Tシャツ、手ぬぐい、包装紙、コースター等のイラストを手掛けています。これらの商品は東京などを經由せず、いきなりヨーロッパ、とくにイタリアに出すとのことです。イタリアは、知的



林よしえさん（左）と奥村奈央子さん（右）

なハンディがある人のデザインや写真などの創作を通して、市民との関わりを深める活動が非常に進んでいる国なのだそうです。様々な分野の専門家の支援により、最近ではトリノ・ジャズフェスティバルのビジュアルを担当するなど質の高い作品が生み出されているとされます。東京を飛び越えて、このような「先進国」に直接飛び込み、逆輸入した方が、問題提起として手っ取り早いのかもかもしれません。



イラスト化した商品の数々

#### 図書のご案内

NTC コンサルタンツ OB で、山崎農業研究所会員でもあります田久保晃さんの本が農文協より出版されました。詳しくは同封のパンフレットでご案内しますが、ぜひ蔵書に加えてはいかがでしょうか。

#### 次回の定例研究会

詳しくは未定ですが、4月に定例研究会を開催したと考えています。取り上げてほしいテーマ等、ご提案があればぜひ事務局までお知らせください。また、開催曜日は基本的に土曜日としています。平日の開催提案の声もあります。開催日や開催方法などについてもご意見ご提案を御受けしたいと思えます。

#### 山崎記念農業賞基金の寄付募集

山崎記念農業賞は、会員の皆様からの寄付からなる基金で運営しています。昨年度は26万円ほどの寄付をしていただきました。山崎記念農業賞の主な支出は、授賞対象者調査費（主に交通費）、受賞者の旅費交通費（2名程度）と表彰楯製作費です。山崎記念農業賞の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。振込用紙（郵便局用）を同封していますのでご利用ください。

#### 会費納入のお願い

山崎農業研究所は、会員の会費や寄付で財政のほとんどを賅っています。会費納入率が昨年度は83%でまだ十分とは言えない状況にあり、研究所の運営に支障をきたす要因となっています。まだ会費を納められていない会員におかれましては、是非会費納入にご協力くださるようお願いいたします。

入金先； 郵便貯金 山崎農業研究所 口座番号 10130-79304751

みずほ銀行 普通預金 山崎農業研究所 四谷支店 (036) 口座番号 8043304

事務局連絡先 益永八尋 E-mail yahiro\_mas@docomonet.jp (自宅)

携帯 080-2061-4227

渡邊 博 E-mail hi.watanabe@ntc-c.co.jp (NTC コンサルタンツ株)

携帯 080-6965-9845